

R6・2024年度 学校評価 報告書

学校法人 日照学園
にっしょう認定こども園

[教育課程（全体計画）]

I) 教育目標（めざす幼児像） ～「自分でやりたい！」の土台をつくる～

自育力！ ～ 体力・基本的な生活習慣を育む ～
共育心！ ～ 子供同士・保育者同士・子供と保育者同士、共に学びあう ～

II) 教育方針（めざす幼稚園像）～土台作りを支援する～

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (1) 基本的な生活習慣を大切にする幼稚園 | =モンテッソーリの日常生活の練習 |
| (2) 言葉を大切にする幼稚園 | =サントレ教育（母国語を大切にする） |
| (3) 生きる力を身につける幼稚園 | =モンテッソーリ教育による自立心のはぐくみ |
| (4) 環境教育につとめる幼稚園（SDGs） | =子供の敏感期に応じた室内外の環境整備 |
| (5) 家庭や小学校との連携を大切にする園 | |
| (6) 使命観をもつ保育者のいる幼稚園 | =教職員は保育の向上に努力する。 |

III) 今年度の重点目標（継続目標）

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1) 早朝・ポパイ・モンテッソーリ | =たてわり保育の意識、園庭遊びへの取り組み |
| (2) 毎日のふり返しタイム、ICT 化の活用 | =保育者全員による全園児の成長の把握 |

IV) 今年度の内容

《●＝自己評価項目》

《評価 A ～ D》 A =十分に達成されている。 B =達成されている。
C =取り組まれているが成果は十分ではない。 D =取り組みが不十分である。

[1] 教育目標・教育方針

●＝教育目標や方針、保育の内容について、職員と保護者にその理解を深めるよう取り組んでいる。

- 日照幼稚園から「にっしょう認定こども園」への移行は地域へ浸透してきた。(評価＝A)
- ◎「新教育要領(3つの柱、10の姿)」に基づいた園の教育課程についての更なる理解浸透をはかる必要がある。(評価＝B)
- ※3つの柱：①学びに向かう力、人間性等を育む、②思考力、判断力、表現力等を育む、③知識・技能の基礎を育む
- ※10の姿：①健康な心と体、②自立心、③共同性、④道徳性、規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現

[2] 教育課程の編成

- ＝教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直す。

- 新教育要領に即し、園の全年齢を見通した教育課程を作成することができた。(評価＝B)
- ◎PDCAサイクル：CとAの充実が求められる。(評価＝B)
- ※PDCAサイクル：Plan(計画)、Do(実行)、Check(測定・評価)、Action(対策・改善)

[3] 指導計画の作成と評価

- ＝互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。

- ◎水曜ミーティング(常勤・幼稚園・おひさま)を通して、日々の保育の点検・気づきの公開、また3年間の保育の連続性、教育方針の徹底などを話し合っている。一時預かり部門は独立したポパイミーティングを行い、長時間保育についてさらに相談する必要がある。(評価＝C)
- 2018年度から採用したふり返りタイム、ICTが定着してきた。(評価＝A)
- ICT化(Kid's View)の活用が充実してきた。(評価＝A)
- ◎自己評価後の職員間の協議時間をもつ。(評価＝C)

[4・5] 教育環境の構成

- ＝幼児の発達に即した遊具や用具、素材などを用意している。

- 水曜ミーティングを通して、各部屋のみならず、園全体の環境構成が考えられている。(評価＝A)
- 施設型給付によって、保育園部門の保育室や遊具を充実することができた。(評価＝B)
- 円環型の園庭の整備に、大型遊具(太陽のとりで)が充実している。(評価＝A)
- ジャングルジムを購入できた。(評価＝A)
- ◎季節の変化を感じる仕掛けをとり入れる(評価＝B)

- ＝異年齢の幼児が自然に交流し、学びあえるような環境構成について。

- ◎朝9時～10時までの好きな遊びを見つける時間は充実している。(評価＝B)
- ◎預かり保育(15時以降、ポパイ)は、ミーティングやスタッフの充実が検討される。(評価＝B)
- ホールでの遊びが、クラスをこえて行われている様子がみられる。(評価＝B)
- ◎アメリカ人保護者による「English Class」が日米園児の交流につながっている(評価＝A)

[6] 教師同士の協力連携

●＝教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようにさまざまな工夫をしている。

○ミーティングをとおして教諭間では共通理解は十分なされている。 (評価＝B)

○ICT化によって全園児の成長が共有できるようになった。 (評価＝A)

[7・8] 研修・研究への取り組み

●＝研修を修了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがある。

○水曜ミーティングが十分に機能している。 (評価＝A)

○職員の増加で外部への研修参加に余裕がみられる。 (評価＝B)

●＝療育専門機関と連携をはかり特別支援を必要とする幼児に対する保育の研修研究を行っている。

○水曜ミーティングが十分に機能している。 (評価＝A)

◎療育専門機関を迎えて話し合う。園での研修を行う。 (評価＝B)

○モンテッソーリ教師養成コース。ディプロマ取得3名、現在1名研修中。 (評価＝A)

[9・10・11] 安全管理体制の整備

●＝緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をする。

○学校安全の中「①生活安全 ②交通安全」には十分取り組まれている。 (評価＝A)

○消防署の査察で評価。 (評価＝A)

○保育園の避難訓練の12回に、幼稚園も避難訓練も増加できた。 (評価＝A)

○保育園は、内科検診は年1回であったが年2回にすることができた。 (評価＝A)

○個人ではなく、園で全職員の健診とインフル受診を行った。 (評価＝A)

●＝事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて教職員間で話し合う。

○水曜ミーティングが十分に機能している。 (評価＝A)

○園庭改修によって、危険箇所が予防されている。 (評価＝A)

●＝施設設備は常に整備され、室内は整理整頓が行き届いている。

○水曜ミーティングが十分に機能している。 (評価＝A)

[12] 保護者との協力と支援

●＝保育参観や保護者会などで、共通理解を得るように取り組んでいる。

○ICT化（Kid's View）の活用で担任と保護者との連絡が円滑になる。 (評価＝A)

○日米の保護者の交流が、ハロウィンなどで一部すすんだ。 (評価＝A)

○保育参観で、ある程度の理解は得られている。	(評価=A)
○保護者は行事へ積極的に協力をしている。	(評価=A)
[13・14] 地域への開放と支援	
●＝地域開放や子育て支援のあり方について、教職員で話し合っている。	
○「おひさまくらぶ」の参加者が少ないのが課題。	(評価=B)

IV 今年度も継続しさらに充実したこと

【施設設備の新設もしくは増設】

- ・ ジャングルジム
- ・ 裏門（南門）の鍵の増設

【園内研修の充実】

- ・ 毎日のふり返しタイム・水曜ミーティング・おひさまミーティング・ポパイミーティング

【その他】

- ・ HP のリニューアル

V 今後の取り組むべき課題

① 保育教諭の資質の向上

- ・ 新教育要領（3つの柱・育ってほしい10の姿）と常に対比し、自らの保育をふり返し向上させる。
- ・ 上記の視点から「年間行事、月案、日案」を見直し、以下の保育についても振り返る。

【安全面】 子どもへの目配り（危険予測）、不適切保育の確認

【保育面】 サントレの群読・モンテッソーリ時間の充実

まことの保育（仏教保育）カリキュラムの充実、日米交流保育

【ICT化】 Kids View の最大限の活用

【研修面】 園内のモンテッソーリ研修・サントレ研修・特別支援研修

【小学校連携】 小学校一年生の担任教諭と合同の「架け橋カリキュラム」会議

③ 施設の整備

- ・ ホール（各種行事、全体集会、ポパイに使用）の改修
- ・ 職員室の改修（PC 機器等）
- ・ ICT 化の再検討（WIFI の安定性確保）
- ・ 書架（絵本コーナー）（廊下）の見直し
- ・ HAPS（ハグス）社の新園庭遊具の定期的塗り替え

VI 学校関係者の評価

【開催日】 2025 年 2 月 28 日（金）開催

【出席者】 ○学校関係者評価委員（クラス委員）

青組＝村上美春・小田奈々美、黄組＝立花衣美

○園長・寺岡主幹・吾郷希緒美

【内 容】

①教師の自己評価をまとめて作成した上記の学校評価を説明する。

②各委員よりおおむね学校評価の内容について了承され、来年度以降の課題について、期待の弁を述べられる。

VI 公表

① 2025 年 3 月 HP 掲載 ②職員室での閲覧 ③ 2025 年 3 月保護者総会